

# 令和2年 鳥羽市学校通学区審議会会議録

## 第2回

場 所 鳥羽市教育委員会 会議室

期 日 令和2年8月8日（土）

開 会 午後2時

閉 会 午後4時

出席委員	委員 萩原 彰 委員 中村 幸照 委員 東 和彦 委員 前田 陽一郎 委員 中村 晴恵 委員 勢力 昌宏 委員 家田 晶代 委員 宮崎 太資
------	---

教育委員会（説明員及び書記）	教育長 小竹 篤 総務課長 山本 勝利 学校教育課長 岩本 和也 （書記） 総務課庶務係長 天田 雄也
----------------	---

## 1. 教育長挨拶

### (教育長)

大変暑い中、お集まりいただきありがとうございます。

第1回目の学校通学区審議会の後、7月27日に答志にお伺し、答志地区の中学校、小学校、保育所の保護者、答志地区の審議会委員の教育委員会の考え方についてお話してきました。統合計画ができてからの説明では、地域の方に議論してもらうことができませんので、審議会の答申を大切にしながらも、現状を説明するために答志に行ってきました。令和3年4月からは新しい統合計画で進めていきたいと思っていますので、この計画を作る段階で、通学区審議会の開催と平行して地区懇談会を行っていきたくて考えています。今後、他の地区へもお伺いし直接お話しさせていただく機会を作っていきたいと考えています。

答志のみなさんにお話ししたことは、平成27年度策定の統合計画の推進については、一度ストップして、今年度（令和2年度）中に令和3年度からの新しい統合計画作っていきたくて申し上げました。前回の計画のなかでは、答志中学校は令和4年4月に鳥羽東中学校へ統合することになっていましたが、一旦、白紙に戻したいとお伝えしました。令和3年度からの新しい統合計画における答志中学校の統合の位置付けについては、今後、特に保護者のみなさんにしっかり議論してほしいと申し上げてきました。今回、策定する統合計画も保護者のみなさんの賛同が得られないような計画では前に進めることができません。子どもたちの将来に一番責任を持っていただく保護者の皆さんの議論の中で、統合には反対だという意見が多ければ統合できないと説明してきました。ただ保護者の中に、子どもが人数が減ってきて心配という声があるのなら「しっかり議論してほしい。」と話しをしてきました。その上で賛成が多くなれば統合ということを考えて行くと話してきました。今回は、保護者の半数以上にあたる約40人の出席があり、非常に熱心に話を聞いていただきました。質問にも全てお答えさせていただきました。「反対意見が多いと統合は難しい。」という教育委員会の方針はしっかり申し上げました。もう一度、地域の方や町内会の方等にも入ってもらって、懇談会を開催すると伝えてきました。

令和3年度からの統合計画の策定については、通学区審議会で議論のあと答申をいただきます。その後教育委員会で、その答申に沿った統合計画が作られることとなりますが、現時点での教育委員会としての方針案を持っています。

まず、小学校につきましては、これ以上積極的に統合する考えはありません。方針として、基本的には小学校は地域に残していきたいと考えています。各地域に小学校を残して、各地区でコミュニティスクールとして地域の方の協力の下、町全体で学校を運営していくという組織づくりをしていきます。菅島小学校は既にコミュニティスクールとして運営しています。例えば、保護者の数が減ってきますと、学校の草刈りをするのも人数が少なく大変になりますので、町内会や老人会の協力してもらうこととなります。これから2年間かけて市内の小学校を全て、コミュニティスクール化して地域に残していきたいと考えています。ただし、極端に子どもに人数が少なくなると、全体で2学級しかない小学校になりますと、担任の先生が教頭も含めて2名になります。そういう状況が続いてくれば、統合の話をさせてもらうかもしれません。

中学校に関しましては、教育委員会の案としまして、神島中学校はへき地等級3級ということもあり、通うことが非常に難しいとため小中併設校として残します。他の中学校に関しましては、

長岡中学校は、地元から令和4年4月に鳥羽東中学校に統合したいという要望をいただきましたので、その通りに進めていきます。答志中学校と加茂中学校につきましても、令和6年4月に、今の鳥羽東中学校の場所に学校名を変えて、そこに新しいコンセプトの中学校を作りたいと考えています。長岡中学校区から鳥羽東中学校へ通う方法としてスクールバスの運行を想定をしています。そのため、来年度の予算ではスクールバスの購入を考えています。答志中学校は基本的には定期船でマリナーミナルに着く想定です。現在、菅島と桃取の生徒は、マリナーミナルから「かもめバス」で鳥羽東中学校に通っています。今後、かもめバスを利用した通学方法は残りますが、マリナーミナルに自転車置き場を作って、自転車通学も可能にしたいと考えています。雨天時等は、現在のかもめバスを利用することもできます。自転車通学を可能にした場合は、通学路の安全性を確保する必要がでてきます。そういった準備を進めながら、令和6年4月に答志中学校は現在の鳥羽東中学校の場所へ通えるように統合を考えたいということです。加茂中学校につきましても、現在、消防庁舎がほぼ完成していますが、そこから加茂地区へ抜ける道路ができまして、その道路を通ると鳥羽東中学校と加茂中学校の距離は3kmです。船津駅がちょうど中間地点になります。そこからどちらに行っても1.5kmです。ただ、船津駅から鳥羽東中までの途中の道が冠水する恐れがありますので、市でその道路の拡幅と冠水しないように嵩上げして歩道を整備します。そうすれば、自転車で安全に通学できるようになります。そういった道路整備も含めて令和6年4月には安全な通学路を確保して統合を進めていきたいと考えています。中には、電車で通いたいという子がいるかもしれません。現在、鳥羽の子は、定期券を購入して公共交通機関を利用して通学する児童生徒には、市が100%補助していますので、この場合も同じようになると思います。加茂中学校の生徒が鳥羽東中学校の場所へ通うとして、一番遠くて6kmです。これは文部科学省が示している基準の6km以内および1時間以内の範囲となります。基本的に加茂中学校の生徒は道路を整備していきますので、この統合計画の中では自転車での通学を提案をしていきたいと考えています。長岡中学校につきましても、一番遠い地区は国崎地区ですが、ここからスクールバスによる通学を想定すると約40分で通えます。これも1時間以内で通学できるという範囲内に入っていることとなります。これからそれぞれの地区へ伺って、お話しさせてもらいたいと考えています。

地元の保護者の方々が反対しているのに強行するようなことはしません。説明させていただきながら、こんな計画で進めたいというお話しをさせていただこうと考えています。ご意見を伺いながら進めさせていただきたいと思います。

## 2. 会長あいさつ

### (会長)

それぞれの子どものための保護者のご意見が当事者として一番大切だと思います。先生方の意見ももちろん大切です。教育委員会としては、この審議会の意見を十分に反映して計画を作っただけだと思いますので、ぜひ、闊達なご議論をお願いしたいと存じます。

### 3. 議事録の承認について

(会長)

事務局から説明をお願いします。

(総務課長)

先日、委員のみなさまに議事録をお届けさせていただきました。議事録の中には委員のお名前を入れていません。委員として記載していますので、ご自身の発言と思うところの内容が違うところがございましたら、この場でご指摘いただいて修正させていただきたいと思います。

指摘がなければ承認をお願いします。

(会長)

事前に、ご確認はいただいていると思いますので、承認してもよろしいですか。

(委員)

異議なし。

(会長)

では、承認とさせていただきます。

(総務課長)

議事録につきましては、審議会の中の議論として、教育委員会のホームページ等で公表させていただきたいと考えていますので、よろしくをお願いします。

### 4. 議題

(委員)

教育長のご挨拶の中にありましたが、今回の統合計画を作る際には一般の方の意見がすごく大切だということでした。私も一般の保護者とたくさん交流がある方だと思っています。今回の会議の内容をもとに、次の会議までに他の保護者の方に意見を求めてもいいのでしょうか。

(教育長)

それは大いにしていきたいと思います。代表として来ていただいていますので、個人の意見はもちろんです。地区の他の方の意見も拾っていただきながら、全体としてお話ししていただくとありがたいです。小学校や中学校のPTAの方等ともお話ししていただいて、こんな話がでているよと、意見交換していただいて、この場に還元していただくとありがたいです。

#### (1) 通学区についての審議(小学校の通学区を中心とした審議)

(会長)

事務局より説明をお願いします。

## (学校教育課長)

### 資料に基づき説明

小学校における複式学級の見通しについて、今回お配りした資料「小学校における複式学級の見通し（令和2年度～令和12年度）」で説明します。小学校は、1. 同学年の児童で編制するという欄に小学校1年生は35人、その他の学年は40人となっています。また、2. 二の学年の児童で編制する学級と記載がありますが、これがいわゆる複式学級と呼ばれるものです。ここには16人と書いていますので、小学校2年生から6年生までは2つの学年を合わせて16人までが複式学級。2学年合わせて17人の場合は単学級ということになります。ただし、小学校1年生を含む学級にあっては、合わせて8人以下の時は複式学級、9人になれば単学級で授業が行われることとなります。

中学校においては、通常は、1. 同学年の生徒で編制する学級は40人。2. 二の学年の生徒で編制する学級は8人となっています。三重県においては、中学校の複式学級は解消するという方向で進んでいますので、神島中学校についても、国の基準で考えると複式学級ですが、教員の加配等を行うことで単式の授業をしています。

第2表は小学校の教員数です。教員数は全て学校の学級数で決められています。特に見ていただきたいところは、小学校の学級数3という欄の下の4という数字です。これは、学級担任3人と教頭1人の4人ということになります。それが学級数2になると、教員数は2になります。これは教頭1人と担任1人です。学級数が2ですので、教頭が担任をすることになり、学校運営上厳しい状況になるということをご理解いただきたいと思います。

それ以降の資料は複式学級が見込まれる小学校の10年推計です。丸で囲んでいるところが複式学級です。それぞれの学校で2個複式、3個複式と年によって、推計されています。欠学年がある学校もあります。3つの学年に丸を付けているところは飛び複と言って、学年が続いていない1年生と3年生等が同じ教室で授業をすることになります。また、学校によっては、学級数が2になる年もあるという推計が出ていますが、それがずっと続くわけではなく、その1年間だけでそれ以降は3学級が見込まれています。また、現在複式学級がない学校でも、今後、複式になることが見込まれています。

今後10年間の見込みとしましては、4校が複式学級で授業をする見込みとなっています。

## (教育長)

前回の統合計画では、基本になる数字がありました。小学校は20名、中学校は30名以下になったら統合を検討していくと記載していました。今回の統合計画では、小学校の統合について、20名以下という数字を入れない方向で考えています。学級数を基本として記載にしたいと考えています。先程の表では、資料では菅島小学校は今年度14名になっています。前回の統合計画だと統合を検討していく数字ですが、今度の統合計画にその数字を記載しないことによって、菅島小学校は学級数が2つになるまでは、統合について地元協議を進めないという案に変えていきたいと考えていますがいかがでしょうか。

(会長)

教育委員会の案としては、小学校は全て存続ということですね。それを念頭に置きながらご議論いただければと思いますがいかがでしょうか。

**【複式学級と先生の配置について】**

(委員)

複式学級というのは、どういった方法で授業をしますか。

(学校教育課長)

複式学級というのは、違う学年の子が同じ教室で授業をします。例えば今年の答志小学校は、2年生の4人と3年生の9人が同じ教室で、基本的には1人の先生が担任と一緒に授業をします。授業の中身としては、2年生は2年生の授業を3年生は3年生の授業をしますので、担任が2年生の授業をしている時は、3年生は自分達で学習をして、先生が3年生の授業をしている時には2年生は自分達で学習するようになります。学習内容は自分の学年のものですが、先生が直接関わる時間が半分位になってしまうということになります。

(委員)

例えば菅島小学校の場合、2学級数になる年がありますよね。翌年には、また3学級になる見通しが出ています。この1年間は教職員がなんとか乗り切れということでしょうか。

(教育長)

この見通しでは1年限りの2学級ということになっていて、ずっと2学級が続く学校はありません。その年につきましては、今はまだ具体的なことは言えませんが、加配を検討する等できるだけ、学校が維持できるように教育委員会としてもバックアップしながらやっていきたいと考えています。

(委員)

加配で何とかなりそうということですか。

(学校教育課長)

非常勤の加配等は市の裁量でできると思います。それ以外のところは県の教育委員会に働きかけるしかないと思います

(委員)

テレビで学校の教育現場を取り上げている番組を見ました。その番組では、先生がとても大変で、やることがたくさんあって、家に帰っても資料をまとめていると紹介していました。学級数が2になって、教頭先生も含めて教員が2名になるということは、とても大変だと思います。現

場の先生達の負担が少しでも減ればと思います。先生達に余裕ができれば子どもたちにより良い教育をしていただける可能性もあると思います。先生達の負担が減るように国や県に働きかけていく予定はありますか。

**(教育長)**

おっしゃる通りです。学校の先生方の負担が増えてくる一方だということは、教育委員会も学校現場も認識しています。何とか業務を減らすように考えています。国としても、働き方改革で、勤務時間を減らすよう勧めています。

鳥羽市では今年からタイムカードを導入して、学校の先生の勤務時間を計っています。ただ、業務自体を減らすことができない状況がありまして、県の教育委員会でもスクール・サポート・スタッフという先生の業務を助けてくれる人を部分的に導入する等、少しずつ改善していくようにしています。学級数が減って先生の人数が減ってきますと、ちょっとした出張や研修に出にくい状況になってきます。国も適正規模ということは提示していますが、鳥羽の現状を考えますと、地域性がありますので、離島を含めて1つにまとめて小学校を適正化するという事は難しいと考えています。学校の先生は大変になるとは思いますが、小学校は小規模校を残していきたいと考えています。

**(委員)**

先生の人数が2人とかではなく、学校を維持するために必要な最低人数を、国や県に要求して欲しいと思います。校長先生と教頭先生以外に何人かの先生がいれば、出張も行けるとは思います。

この人数に保健の先生は含まれますか。

**(教育長)**

国の法律で学級数が2の時には先生2と決まっています。校長、養護教諭、事務職員はそれに含まれません。これは基準は、おそらくこのまま維持されていくと思います。

**(委員)**

今後、国全体で子どもが減ってきますよね。そうすると今までと同じ人数の先生がいたら、手が空いてくる先生がでてくると思います。今後、少子高齢化が進むので、制度を変えて欲しいと思います。

**(教育長)**

1学級あたりの子どもの定数という点については、ある程度、年と共に減ってきています。昔は、1学級44人の時代もありました。今は40人です。1年生の定数35人というのも10年位前に作られたと思います。時代と共に、少しずつ定数を減らしてきてはいますが、今も30人にしてほしい等という要求もさせてもらっています。ですが、なかなか国の基準が変わらないので、難しいところです。

現在、学校の先生の給料は国が1／3補助してくれます。2／3は県が支払います。国から県へ補助金を出している状況です。人数の定数等については、県で独自にある程度は決められます。三重県も小学校6年生に関しては独自のルールがあります。

**(学校教育課長)**

小学校6年生の複式学級については、三重県独自で、15人でも単式学級にすることになっています。

**(委員)**

複式学級を導入する場合は、年度が始まる前にどの学年とどの学年が一緒になるという説明がほしいです。複式学級に馴染みがない学校では、保護者の不安を少なくするためにも複式学級の授業方法等についての説明が必要だと思います。

**(教育長)**

今回の件につきましては、前の校長がある程度話をしていたと思っていました。保護者のみなさんの中にはPTA総会へ出席されていない人もいて十分に知れ渡っていなかったということが考えられます。

**(委員)**

複式学級になる対象の学年の保護者を集めて説明していただいていたそうですが、先生の加配があれば、単学級になる可能性もあるということで、その後の報告はいただけていないそうです。また、授業方法等についても、保護者への説明が少なかつたようで、怒っている保護者がいました。今後、新しく複式学級が導入される学校に対しては、保護者に丁寧に説明していただいた方がいいと思います。イメージしていた複式と違ったみたいで不安があったようでした。

**(委員)**

保護者も説明を聞く機会があったと思うので、しっかりと聞いていく必要があると思います。

**(委員)**

ずっとやっていけば、複式学級にも慣れてくるとは思いますが、初めは戸惑うことが多いと思います。保護者や地域が、まだ複式学級になれていない状況があると思います。

**(教育長)**

周知の方法については、また考えさせていただきます。鳥羽の先生方は複式での授業のノウハウを獲得されている方が多いので、すごく不安ということはありませんが、大変なことに違いはないと思います。

複式学級の授業は、大学の教育学部を出たとしても、複式学級を前提とした勉強をしている先生はいません。現場へ来て初めて経験することですので、先輩から教えてもらうということしか



なく、大変には違いありません。

(委員)

複式学級とは先生方にとって大変な現場であることは理解できますが、複式学級が続いている地域で生まれる子どもたちは、小さい頃から上の子を見て育ち複式で授業を受けることに違和感や抵抗がなく、ストレスも少ないのではないのでしょうか。

(教育長)

そうですね。やはり複式のスタイルにしますと、自分で勉強をする時間が増えて、それをどれだけうまくできるかが学力的な違いになってきます。先生が付いて教える分につきましては、他の一斉授業をする学校と全く一緒です。自主学習に集中できない子は確かにいます。プリントをもらって、それをしなさいと言われても、先生の目が届かない場合は集中できない。そういったことはあると思います。鳥羽は複式学級の授業において、最近はノウハウを獲得していると言いましたが、子ども同士で先生役を作って、その児童が前で勉強を教えるというスタイルもかなり定着してきています。そういった授業をするためには、訓練が必要になります。先生役の児童に先生が事前にレクチャーして、それが普通に回ってくるまでにはかなりの時間を要しますが、そうやってできている学校も多いです。

(委員)

都会でたくさん的人数の中の1人として教えてもらうよりは、基本的に先生との距離が近いので、そんな中で自分勝手に遊ぼうと思っても、なかなか難しいと思います。個人を見てもらえる可能性は人数が少ない方が増えてくると思います。自立もしていかないといけないので、子どもたちもしっかりしてくると思います。

(委員)

人数が少なくなってきて、昔だったら、大体その学年の子とだけ遊んでいましたが、最近是人が少ないので、上や下の学年の子どもとも遊んでいます。それはメリットかなと思っています。

(教育長)

縦割りという考え方は、学校でも大事にしています。行事や登下校等で縦割りの活動をしています。そういったことは大事にしていきたいですね。

(会長)

人数が減ることで、意図しなかった良いこともあるということですね。

音楽や体育の授業のような、ある程度集団規模の必要な授業は、複式では遜色なくできていますか。

(教育長)

実技教科の複式というのは、非常に難しいです。例えば体育ですと、チームプレイがあります

ので、学年単位では難しいこともあり、縦割りで全校一斉に体育の授業をする等、工夫をしながら行っています。

(会長)

そういった意味では、ノウハウが蓄積されていると言えるでしょうね。

(教育長)

鳥羽の複式の経営力について、私は三重県内で随一だと思っています。

(委員)

私が働き始めた頃から、鳥羽市には複式学級がありました。その後、統廃合もありましたが、複式学級を教えることを経験している教師がたくさんいますので、そのノウハウは残っていると思います。中学校も人数が減ってきていますので、体育の授業でも7～8人でサッカーはできませんので、内容によっては、学校全体で体育をすることもあります。中学校でもこういった工夫をしていますので、対応はできていると思います。

(委員)

複式学級での学習の習熟度について、学力等、何か評価できる基準のようなものがありますか。

(教育長)

複式学級だからといって、特別に評価方法があるわけではありません。人数が30～40人いる学級は、それを2つに分けて、少人数にして、習熟度別に授業を行っているところもあります。それは先生の人数に余裕がある場合です。複式学級をさらに分けることはできません。

#### 【コミュニティスクールについて】

(委員)

コミュニティスクールについてももう少し具体的に教えてください。先程、複式学級の話もありましたが、子どもたちが徐々に減ってきて、先生の数も減ってきますと地域との関わり方はどのようになりますか。

(教育長)

コミュニティスクールとは、国からも推奨されている仕組みです。昨年からは菅島小学校で実施しました。来年は弘道小学校や答志小学校等複式学級ができる予定の小学校はコミュニティスクールにする予定です。その次の年には、他の複式学級がない学校もコミュニティスクールにして、2年後には全ての小学校をコミュニティスクールにしていこうと考えています。

これは、基本的に、子どもが減ってきてPTAの会員が減ってきている状況で、学校の行事や運営が成り立たないということがあります。学校の草刈りもPTAの会員が数人しかいなければ大変

です。町内会や、婦人会、老人会等をお願いして学校を運営する組織として、町ぐるみで動いていただけないかとお願いをさせていただきます。

今、各学校には学校評議会というものがあり、5人位の委員さんがいらっしゃいます。これに代わって、学校運営協議委員を10人位の方をお願いします。これは、町内会の役員の方や場合によっては漁協の方や老人会の方等にも入っていただくようお願いいたします。今まで校長は学校の中だけで、教育方針や学校の運営方針を申し上げていましたが、コミュニティスクールになったら、10人の委員さんに教育方針や学校の運営方針をお話しして、委員さんから意見をもらうようになります。校長は委員さんの意見を聞きながら学校の運営方針を打ち出していくこととなります。これがコミュニティスクールの基本的な考え方です。

**(委員)**

そうなってくると校長先生はとても大変になるのではないですか。

**(教育長)**

大変な面も出てくるかもしれませんが、地域の方と一緒に学校を運営していけるようになると助けていただける面もあると思います。例えば、海での学校水泳の場合、職員がいなくて実施できないこともあります。その時に、町内会の人にもお手伝いいただき、場合によっては船を出して安全確認もしていただきながら実施できることもあると思います。町に開かれた学校を作っていくことがこれから大切になってきます。運営する人数が増える分、調整は大変になると思いますが、それが一旦軌道にのって、学校はそうやって運営していくものだという考え方が浸透していけば、校長が言わなくても、通学路が壊れている時等に、子どもたちのために地域の人が自主的に直してくれるという形になれると考えています。

**(委員)**

新しい統合計画が今年度中（令和2年度）にできるということでしたが、それと並行してコミュニティスクールも進めていくということですね。地域での説明会の時などに、コミュニティスクールの件について各自治会等へ理解を求めることも非常に大事なことになってくると思います。私達も話を聞くと理解がある程度進みます。これからの時代は、地域の人達と一緒にあって、子どもたちのために、先生も一緒になって両方からやっていく必要があると思います。

**(教育長)**

小規模校を残していくということは、あちこちに小規模校を残すということになります。学校を残すということは地域の願いでもありますので、地域の方々にもある程度責任を持っていただきながら、ぜひ学校運営に協力してくださいとお願いしたいと思っています。

**(委員)**

私も菅島が今年からコミュニティスクールになったと聞いて、どんなことをしているのかと思いましたが、今の答志小学校と変わらないと思いました。

(教育長)

答志も神島も相違もそうですが、今、コミュニティスクールの指定をしていなくても、町の人に入っていただいて助けていただいている状況になっていますので、それを制度として動かしていただきたいと思っています。校長先生が代わっても、そのシステムは変わらず動き続けられるようにするために、コミュニティスクールにしたいと考えています。

#### 【小規模校とICT教育について】

(委員)

市の判断として、地域の意見も尊重しながら学校統合について考えたいということは十分に理解できます。一方、学校の体制の面では不安が残ると思います。例えば、先生方の研修や分掌の負担については、教育委員会としてどの程度サポートできますか。また、これから英語教育が入ってくると、都市部の学校との学力格差が生じる可能性が出てくることも考えられますが、その点のサポートについても教えてください。

(教育長)

複式学級になっても小学校は残していきたいと考えた理由の一つとして、鳥羽の学校では複式学級の教育について、一定の形ができています。今まで複式学級で授業をしていた学校は成果を上げてきました。これから複式学級になる予定の小学校についても、今までの先生方が培ってきたものが蓄積されていますので、3つの複式学級だったらいい学校ができると教育委員会としては考えています。先生方が複式のノウハウを獲得されています。いきなり都会で複式を始めるのではなく、すでに複式授業をやっている地域ですので、一定の成果は出せると考えています。

今年度は1人1台タブレットを導入することになっています。先程の話では、複式学級の1つの学年は先生が教えて、もう1つの学年は自習ということでしたが、その時間を他の学校とテレビ会議でつなげば、自習はなくなります。今後はそういった授業スタイルもできていくと思います。また、今まで自習といえば紙ベースでしたが、タブレット等で学習コンテンツが充実してきますので、今まで以上に学習面での保証はできていくと考えています。

小規模校では確かに先生の負担が大きいということはありません。ギリギリの人数で学校を運営することになりますので、出張についても課題として度々あげられています。非常勤の講師の配当等で対応しながら、できる限り先生が研修の機会を失わないようにしたいと思っていますが、このことにつきましては、確実ということではありません。また、今後は、先生もテレビ会議で研修を行うことも増えることが想定されますので、出張しなくても学校で研修が受けられるようになるのではと思っています。

英語につきましては、先程、複式学級の説明の中で、飛び複の話がありましたが、4年生と6年生のように年の離れた学年が1学級となる場合、非常に難しくなります。特に、英語について1、2年生の学習はありません。3、4年生は「英語活動」という教科ではない学習をします。5、6年生になると教科としての英語を学習することになります。飛び複になると非常にやりにくい教科です。英語につきましては、文部科学省も専課の教員を配当するというようなことも聞

いていますので、英語の様に複式学級で学習しにくい教科につきましては、非常勤等も含めて教員の配当を考えていくべきだと思います。それは課題として残っていることだと考えています。

(会長)

学校の体制の脆弱化はできるだけ避けたいと考えますので、皆さんと相談して審議会として答申を出す際に何らかの要望をしたいと思います。

(委員)

先程、複式学級の授業方法で、先生が付いていない学年がタブレットを使って他の授業を受けるということでしたが、それは離れた他の学校の授業を受けるということですか。

(教育長)

その可能性もあると思います。複式学級同士がそうやって繋がることもできると思います。これから環境が整っていけば比較的容易にできるようになると考えています。

(委員)

タブレットの導入はいつ頃を予定していますか。

(教育長)

すでに議会での予算は承認されて、1,103 台のタブレットを購入する入札・契約事務も済みました。この台数になると業者が一度には準備できないので、順次学校別、学年別に導入していく予定です。教育委員会としては1月までには学校に配備したいと考えています。導入したタブレットは学校で管理して、6年生が卒業すれば、次の新生児に回して使ってもらう予定です。

(委員)

今後10年先のことを考えると、タブレットもテスト段階かもしれませんが、先生方もスキルを上げてもらって、より良い10年後になればと思います。タブレットもどこまで使いこなせるか、トラブルがあった時はどうするのかという問題もあると思います。先生方も大変だと思いますが、保護者としても一生懸命協力したいと思います。

(教育長)

鳥羽市では、今までタブレット等のICT機器を活用した学習基盤が全然できていなかったもので、この1年でみんなが一斉に始めます。先生の研修も急ピッチで実施しているところです。最初はうまくいかないこともあるとは思いますが、少しずつ定着していったら、タブレットで受ける授業やテレビ会議でする授業が、徐々に普通のものになっていくのではないかと考えています。

(委員)

タブレットが1人1台導入されるということで、まだまだどんなことができるかは分かりませ

んが、可能性は広がると思います。私達教師も研修を積んでいく必要がありますし、固定概念にとらわれず、頭を柔らかくして対応していきたいと考えています。

何年かしたらタブレットが古くなって時代に対応できなくなることがないように設備として更新して行ってほしいと思っています。

(会長)

機器等の更新については、国の補助はありますか。

(教育長)

ありません。

(委員)

先日、鳥羽東中学校で Zoom アプリの使い方の研修会がありました。LAN 整備が行われ、Wi-Fi 環境がしっかりしたものになれば、会議も簡単にできますし、授業も離れた所の生徒とも時間を合わせて十分にできると思います。今の状況でもある程度はできますので、今後、LAN 環境が新しくなるそうですし、新しい物が入ってくれば、少なくとも校区内では十分にできるようになってくると思いますので、格段に進んでいくと思います。

(教育長)

高速 LAN 回線の工事は、9月位から始めて年内位までかかるかもしれません。Wi-Fi 環境ができないと、タブレットの設定もできません。

(総務課長)

工事はそれほど大がかりなものではありませんが、設計中であり発注するまでに少し時間がかかります。発注してしまえば、それほど時間は掛からないと考えています。

(委員)

タブレットを配ると授業中に YouTube を観る子が出てくるようなことはありませんか。

(委員)

それは大丈夫だと思います。

(教育長)

タブレットは自宅に持って帰ることができるようにします。例えば、台風で休校になった時にも健康観察ができます。離島の場合は、定期船が止まってしまうと今は休校にしていますが、各家庭や学校に児童生徒が来て、先生は自宅から遠隔で授業することも可能性としては考えられます。

(委員)

各家庭に Wi-Fi 環境がないとタブレットが使えないという問題はあると思います。例えば地域の空き家を利用して、Wi-Fi 環境を整えて、学校が開かない日でもそこに行って、タブレットを使って授業が受けられるということもできると思います。

(教育長)

事前の調査では 90%の家庭には Wi-Fi 環境があるそうです。あと 10%の家庭については、できるだけタブレットが自宅で使えるような環境を整えてもらえるようお願いすることと、公民館等の公共的な場所に Wi-Fi 環境を整えられたらと考えています。

(会長)

Wi-Fi 環境が整っていない家庭については、公民館等に来てもらったらタブレットが使えるということですか。

(教育長)

そうですね。そのような環境を整えていく必要があると考えています。10%の子どもたちを取り残していくわけにはいきませんので、対策を考えたいと思っています。

(会長)

課題があるだけに、それを解決していくと、他の市町や国等の好事例になると思います。

#### 【小学校の通学区について】

(教育長)

前回の統合計画には、小学校は人数が 20 人以下になったら統合を検討すると記載されていましたが、今回作成する統合計画では、その記載をやめて、基本的に小学校は地域に残す方向で考えています。これから 2 年位経ちますと、複式学級となる学校も増えてきて心配もありますが、それでも小学校は何とか残していきたいと考えています。

(委員)

中学校は統合の方向で考えられているということですので、小学校については今の考え方でいいと思います。子どもたちのことを考えると、人数が多い方が良いという意見もあると思いますが、長岡地区の地域の人達のこと考えると、小学校も中学校もなくなってしまうのではなく、小学校が残ると言うことは長岡地区にとっては大きなことだと思います。

(会長)

今日は小学校のことが議題となっていますが、今まで色々ご意見をいただいていますので、また、議事録の中から答申に盛り込むことを拾い上げながらまとめていきたいと思いますがよろ

しいでしょうか。

教育委員会の案としては、小学校は各地区にできる限り存続させるということで、審議会としてもその方向で考えたいということによろしいですか。

(教育長)

小学校で2学級がずっと続くことが予想されてきた場合は、地域に相談させていただきたいということは盛り込んでいただいた方がいいと思いますがいかがでしょうか。

(会長)

2学級になると教頭も含めて教諭が2人になり、学校運営が厳しくなるということもありますので、2学級規模がしばらく続くことが予想される場合は、改めて統合についても視野に入れるということですが、よろしいですか。ご意見なさそうですので、答申に入れていくことにします。

**【中学校の通学区について】**

(会長)

今日の議題は小学校でしたが、今回は中学校の事を協議して、その次には答申をまとめないといけないので、中学校のことについて、少しご説明をいただけたらと思います。

(教育長)

文部科学省では、学校の適正規模化ということをお勧めしています。中学校では、9学級以上18学級以下、通学時間および距離は1時間および6km以内とされていますが、一方では各地域の特性があるので、地域の意見をしっかり聞きなさいということも書かれています。ですので、どう折り合いをつけていくのかということになります。教育委員会としましては、冒頭で言いましたように、保護者の意見はしっかり尊重したいと考えています。その上で、できれば中学校に関しては適正規模化を図っていきたいと考えています。通学距離6km以内、通学時間1時間以内、学級数は9学級から18学級までという国の基準を踏まえて、鳥羽市の本土側の中学校を1カ所に集めたいということをお案として出させていただきます。神島中以外の全ての学校を集めると、各学年3学級～4学級という年が当分の間続くと予想されています。統合しない場合は、鳥羽東中学校は一学年2学級規模になり、他の中学校は1学級規模です。

そうなった時に小さい学校が点在するということになり、例えば野球のチームが組めなくなります。今年の秋から、長岡中学校がギリギリの9人いますが、鳥羽東中学校も答志中学校も加茂中学校も人数が足りないので、合同でチームを作ります。個人種目も良いですが、子どもたちの選択肢が少なくなります。

各学年3学級規模ということには意味があります。学年で3学級ありますと、例えば数学の先生がその学年担当で付くことができます。1学級だけですと1人の数学の先生が全ての学年を担当します。先生は3学年分の教材研究をします。1人が1学年だけ担当しますと、先生の負担も軽減します。また、9教科全ての先生がいることになります。現状、鳥羽東中学校でも家庭の先



生はいません。加茂中学校は、技術、家庭が不在で、音楽は非常勤の先生にお願いしています。このように、専門の先生が1年間を通してずっといてくれるという体制ができていません。やがて、鳥羽東中学校も生徒数が減っていくと先生の数も減っていきます。鳥羽東中学校にとっても、一定の規模を維持することは教育の質の面からみても必要だと思います。

ただ、通学の距離が増えることとなります。特に離島は船での通学でずいぶんストレスになるかもしれないということもあり、学校通学区審議会でもご意見をいただきつつ、各地区でも懇談会を開催し、説明をさせていただいているところです。

(委員)

今の鳥羽東中学校の生徒数で野球部の人数が足りていないということですか。その人数で野球部が存続できないということは、いずれ無くなるということではないですか。それなら、合同チームのままの方が私はいいと思います。

(委員)

色々な学校が統合すると人数が増えます。クラブ活動の選択肢が増えるということにもなりますし、色々な友達がいる中で子どもたちの心の中の成長もあると思うので、子どもがたくさんいる方が本当はいいと思います。

(委員)

人数が増えると刺激も増えて、良い面の方が多いような気がします。

(委員)

当然メリット・デメリットはあると思います。

(委員)

令和4年に長岡中学校が鳥羽東中学校に統合するとあります。それに合わせて、国の1/2補助を受けて鳥羽東中学校の大規模改修工事の計画があります。そして、無線LANと1人1台端末という計画もあります。

それぞれの統合にあたって、保護者や地域から要望が出ていますが、中学校名はいつの段階で変更する予定ですか。また、制服についてのお考えも教えてください。バスの件も分かれば教えてください。

(教育長)

制服につきましては、鳥羽東中学校と長岡中学校の校長先生と相談して、制服検討委員会を立ち上げて進めていくようになっています。

(委員)

現在、令和4年の統合をひとつの機会として、後々の統合のことも視野に入れて、鳥羽市の中

学校の共通の制服というコンセプトで検討していくことになっている。委員にはPTAの方にも入っていただき、色々なご意見をいただきながら、最終的にはある程度子どもたちにも意見を聞いて、デザインを決めていこうという流れで考えています。令和4年には制服が変わることが決まっているので、令和3年度に入学する生徒についても新しい制服が選択できるようにしようと考えています。

体操服につきましては、それぞれの中学校のものを使って、鳥羽東中学校に統合される時には鳥羽東中学校のものを使うようにしてはと話しています。体操服については、最後の統合の話がまとまってきたところで、一つの体操服にする方向で考えています。

#### (教育長)

長岡地区からも学校名と制服を変えてほしいという要望をいただきました。制服は、現在、両校の校長で検討委員会を立ち上げて検討していただいています。学校名を変えると校歌も変わります。他にも色々なことを変えていかないといけません。令和4年4月には間に合わない部分もでてきます。教育委員会としましては、令和4年の長岡中学校統合の際は、そのまま鳥羽東中学校という名前で統合していただき、その後どうなるかは分かりませんが、加茂中学校と答志中学校が統合される段階になりましたら、学校名も変えていきたいと考えています。それに合わせて、校歌も新しく作るようになります。教育委員会の案としましては、令和6年4月から新しいコンセプトの新しい中学校としてスタートしたいと考えています。

#### (会長)

学校名や制服については、別の委員会ができていくということです。

#### 【地域や学校でのサポートについて】

#### (委員)

障がいを持つ子どもの通学サポートで、ファミリーサポートセンターという制度があるとお伺いしました。その仕組みについて教えてください。

#### (教育長)

ファミリーサポートセンター制度というのは、利用したい人と協力してくれる人がお互いに登録してマッチングを行う仕組みです。アドバイザーがおりましてマッチングをしてくれています。特別支援学級に在籍するお子さんに対しては、サポート制度を利用するのに必要なお金を市費で払わせていただいていますので、その予算の確保は今後も必要だと考えています。

不登校のお子さんが統合によって、通学の距離が増えるとますます学校に行きにくい状況は出てくるのが想定されます。例えば、答志中学校で不登校の子がいたとしたら、今までは歩いて行けたけど、船に乗って学校に行くということは、ますます行きにくくなると思います。長岡の子どもは、みんなと一緒にスクールバスで登校することになりますので、ストレスになるかもしれないと考えています。ただ、現状をみますと、実は小規模の学校程、不登校になりやすい傾向

にあります。重症にもなりやすいです。一度不登校になると戻りにくいという状況は、小規模な学校程多くて、どこの学校にも不登校のお子さんはいらっしゃいますが、学級の編制が変わらないとか、人間関係がある程度固まってしまっている中で、改善しにくい状況が実際にあるということです。学校が変わることによって、その環境も変わって、不登校が改善される可能性も考えられます。

**(委員)**

小学校で不登校だった子どもが中学校に入って良くなったという例もありますので、固定化された人間関係から新しい環境に変わること、刺激になり登校できるようになった例もあります。逆に、まだ出にくい子もいまして、校区が広がると遠いところの子どもは担任がケアしにくい状況も出てきます。校区が広がるとそういったことも増えると思いますので、不登校に関しては、良い面悪い面があると思います。

**(委員)**

どのケースが良くて、どれが悪いのかということは、その子どもによると思います。始めてみないと分からない面が強いですね。ただ、前任の学校では、子どもの家まで一番遠くても10分程度の距離でしたので、担任や副担任、教頭等がちょっと空いた時間に訪問するなど柔軟に対応できていました。統合して校区が広がると、そういったフットワーク良く柔軟な対応が出来なくなることが残念です。また、それに対する対策を考えていく必要があると思っています。今まで通りのやり方では通用しないことも出てくると思います。

**(教育長)**

ハープ等の専門的な相談窓口の強化ということも必要になってくると考えています。学校がフォローできない時に専門的な支援が必要になってくると思います。

**(会長)**

カウンセラーの方とかは常駐されていますか。

**(教育長)**

心の相談員は週に3回程度来てもらっています。カウンセラーも定期的に来てもらっています。

**(委員)**

相談員さんやカウンセラーさんにしても、相談に来てくれれば何とでも対応できますが、不登校の子どもを家を訪ねることはできません。学校で相談に来る子どもを待っている状況になります。不登校の子どもを家に行き話聞いてあげられるといいとは思いますが、その辺の対応が手薄になっていると思います。

(委員)

担任をしていると、学校に来ていない子がいると、一番に家庭訪問したいと思います。家が学校から近いと空き時間に行けますが、遠くなるとすぐには行けませんので回数が減ってしまいます。離島の子どもになると更にハードルが上がってしまうので、その難しさはあると思います。

(会長)

先生方の業務は、ただでさえ増えているので、広域になったら先生方の業務負担が増えてしまうというようなことが極力起こらないように考えていきたいと思います。

(委員)

先程、その子その子で本当に違うというお話がありましたが、私もそう思います。私は商売をしているので、学生と話す機会もあります。地域の力の見せ所だと思って、相談にものつていきます。子どもたちをしっかりとサポートしていくことが、この社会に先に生まれた人間の大切な役割だと思っています。地域で子どもの事を一緒に考えてくれる町になったらいいと思っています。最近はお親のあり方も変わってきていると思います。親を叱ってくれる人はいません。子どもたちの相談を受けられるところはたくさんあった方がいいと思います。

(教育長)

相談窓口も、親が相談する所とか子どもが相談する所等、いくつかはあります。今後は更に充実させていく必要があります。

(委員)

統合について、保護者の方の意見を大切にしながらというお話もありましたが、保護者の意見も色々あると思います。昔は、保護者が先生方を尊敬する中で信用し、子どもの教育について任せるといった考え方が強かったと思いますが、今は保護者が優位で先生が遠慮している状況があるように思います。今は、熱く指導すると、親にクレームをもらうこともあると聞きます。私は昔の様に、先生が子どもたちに遠慮なく、まっすぐ向き合ってもらえたらいいと思います。今は何かあると親がすぐ出てくるので、先生方もやりにくくなっている面もあると思います。保護者の考え方も色々あるので、統合や不登校の問題についても答えを出すことが難しいことだと思います。

(会長)

また中学校については、次回の第3回通学区審議会でご議論いただきたいと思いますので、委員の皆様の校区などで、他の保護者等のご意見を聞いていただいたりしながら、次回にお話しただければと思います。

ありがとうございました。

終了 16:00